

Title	慶應義塾大学英語教育シンポジウム：学習英文法： 日本人の英語学習にふさわしい英文法の姿を探る
Sub Title	Keio University symposium on English education : Searching for what should be involved in a suitable pedagogical grammar of English for Japanese English learners
Author	桃生, 朋子(Mono, Tomoko)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	活動報告書 Vol.5, (2011. ) ,p.33- 33
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20120300-0033">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20120300-0033</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 6

## 慶應義塾大学英語教育シンポジウム 学習英文法～日本人の英語学習にふさわしい英文法の姿を探る～

Keio University Symposium on English Education: Searching for What Should Be Involved in a Suitable Pedagogical Grammar of English for Japanese English Learners

開催日 2011年9月10日

企画 大津由紀雄（言語と認知班）

講演者 江利川春雄（和歌山大学）、大津由紀雄（慶應義塾大学）、斎藤兆史（東京大学）、田地野彰（京都大学）、鳥飼玖美子（立教大学）、山岡大基（広島大学附属福山中・高等学校）、討論者：久保野雅史（神奈川大学）、松井孝志（山口県鴻城高等学校）、討論参加型司会者：柳瀬陽介（広島大学）

2011年9月10日に慶應義塾大学英語教育シンポジウム「学習英文法～日本人の英語学習にふさわしい英文法の姿を探る～」が開催された。本シンポジウムは今回で9回目を迎えるが、今回は「コミュニケーション指向」の英語教育の中で軽視されがちな学習英文法の意義について、理論と実践の両面から検討された。

第一部で、江利川春雄氏（和歌山大学）、斎藤兆史氏（東京大学）、鳥飼玖美子氏（文教大学）、田地野彰氏（京都大学）、山岡大基氏（広島大学附属福山中・高等学校）、大津由紀雄氏（慶應義塾大学）による講演があった。第二部では、柳瀬陽介氏（広島大学）、久保野雅史氏（神奈川大学）、松井孝志氏（山口県鴻城高等学校）による講演があり、その後安井稔氏（東北大学名誉教授）よりコメントをいただいた後、発表者間討論、全体討論に入った。第二部の全体討論は、フロアから集めた質問に登壇者が答える形で進められ、幅広い議論が行われた。汗の滲む会場にて6時間を超える長丁場であったにも関わらず、大盛況のうちにシンポジウムは終了した。

ただ、このような会が真に成功したと言えるのは、大盛況の

うちに終了した場合でも、登壇者が主張した考え方・内容・方法がそのまま世に広まり、そのまま実行に移された場合でもない。各々の主張内容が叩き台となり、関係各所が自身の現状に照らして盛んに議論するきっかけを作れたかどうかこそが、成功したかどうかを決める最も重要な点である。会終了後、反響が様々な場で起こっているようで（詳細は大津研ブログ (<http://oyukio.blogspot.com/>) 等を参照されたい）、この点において、本シンポジウムは成功を収めたと言える。

当日配布したハンドブック原稿・資料、スライド、シンポジウム全体の詳細な報告記事は、大津研究室ウェブサイト (<http://www.otsu.icl.keio.ac.jp/>)、またはブログに掲載してあるので、是非参照されたい。また、今回のシンポジウムをもとにした単行本が、来年研究社より出版される予定である。

（桃生朋子）

The Keio University Symposium on English Teaching was held on September 10, 2011. It focused on a pedagogical grammar of English in a Japanese EFL environment.

